

KS-RemastaのVWSシリーズ2022モデル

天然砥石を導入し研ぎとハンダ技術の
深化を果たしたシェルリードを聴くText by
炭山アキラ
Akira Sumiyama
Photo by 田代法生

KS-Remasta

① KS-VWS-REXII/N
¥27,500(税込)③ KS-VWS-Tempest.I/SR-NVK
¥88,000(税込)② KS-VWS-Tempest.I/NVK
¥55,000(税込)

Specifications

① VWSシリーズのレファレンスモデル●導体:1910~30年代ヴィンテージワイヤー(直径約0.4mm)単線●絶縁:絹糸巻
き●ハンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ヴィンテージハンダN●製造仕様:彫刻刀(鋼 KS-Remasta No.5)、人造砥石+
天然砥石 計10段研ぎ、最終仕上げ30000番、5組まで製作
② VWSシリーズのハイエンドモデル●導体:1920~40年代ヴィンテージワイヤー(直径約0.2mm)単線●絶縁:布(蠟含浸)●ハ
ンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ヴィンテージハンダN+VK●製造仕様:彫刻刀(鋼 KS-Remasta No.5)、人造砥石+
天然砥石 計10段研ぎ、最終仕上げ30000番、3組まで製作
③ Tempestの可能性を究極まで追求したスペシャルモデル●導体:1920~40年代ヴィンテージワイヤー(直径約0.2mm)単線●
絶縁:布(蠟含浸)●ハンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ヴィンテージハンダSR-N+VK●製造仕様:彫刻刀(鋼 KS-
Remasta No.4)、人造砥石+アルカンサス天然砥石 計10段研ぎ、最終仕上げ30000番、コンバンド50種以上、1組のみ製作
◆VWS(ヴィンテージワイヤー&ソルター)シリーズ ◆VKは厳選した天然松ヤニ ◆全モデルとも4本セットで、標準品の長さは全長
43mm、長さ100mmまで同一価格(DL-102などのモノラル仕様や、MITCHAKU-Zシェル用85mmなどの受注可) ◆チップは全
メッキ鍍青銅、標準サイズはシェル側1.0mm、カートリッジ側1.2mm、シェル側1.2mm、カートリッジ側1.0mmも同一価格で受注可



KS-Remastaの生命線とも言える、導体のハンダ結合面を仕上
げる刃物。右が「REX.II N 2022年モデル」用の彫刻刀KS-
Remasta No.5、左は最初期の「REX.II N」用の精密ナイフ



試聴カートリッジとシェルは、KS-
RemastaレファレンスのZYX Ultimate
100とLive18:フォノケーブル「KS-
PHONO-001/EVO.I」(¥110,000
1.5m、税込)と、インターコネクト「KS-
RCA-001/EVO.I」(¥110,000 1m
ペア、税込、2mまで同一価格)で接続

導体磨きの刃研ぎを二層研鑽
進化の度合いを聴き比べる

シェルリード専門工房KSリ
マスタの柄沢伸吾氏は何が凄
いと言っ、一つの商品を開発し
終えてもそこで留まらないこと
だ。同じ導体とチップ、ハンダ
を使いながらピツクリするくら
いに価格の違う製品があるが、
その差はズバリ、ハンダを載せ
る導体面の磨きの工程差による

成長を遂げた最新版の魅力
別物と言える再現性に驚いた

今回、ヴィンテージ線による
KS・VWSシリーズを聴いた。
同シリーズは年を追うごと
にレンジを広げ情報量が増え、
独特の温かみや骨格の確かさな
どの持ち味そのままに、大い
な成長を遂げている感がある。
今回、KS・VWS・RE
XII/Nの初期モデルと、人造
砥石を用いた中期モデル、さら
に人造と天然砥石による202
2モデルを聴き比べたが、これ
はもうまったく別物と言える。
新しくなるにつれて情報量が激
増し、音楽の「真実」へ近づく
のが明確に分かる。最新版はた
いへんな力感と切れ味、スケー
ルを聴かせるのだ。

さらに、導体のグレードを上
げ、精密に研いだ彫刻刀で仕上
げるリード線の数を5→3組に
減らしたKS・VWS・Tem
pest.I/NVKを聴くと、
微小域の再現性が向上し、余分
なメリハリを立てることなく音
像の実体感がアップ。一体どこ
まで進化するのか、思わず目を
回さんばかりの表現である。
最後に人造砥石+天然砥石+
50種以上のコンパウンドで研ぎ
上げたKS・VWS・Temp
est.I/SR・NVKを聴
くと、これだけ全然音が違っ
く。一聴では音量が下がったよう
に感じるが、細かな音場成分など
はむしろずつとクリアに耳へ届
く。また音量を上げて耳へ障
らず、スクラッチノイズも減少
したように聴こえる。これは劇
的に歪みが減少した時の音質
だ。一聴さりげないが、聴けば
聴くほどその凄みに鳥肌が立っ
てくる、そんな表現である。新
世代の柄沢サウンドがここから
始まるのかと思うと、私も興奮
を禁じ得ない。たいへんなもの
を聴いてしまったぞ、というの
が正直な感想だ。前号でレポー
トしたStageシリーズと、
今回のVWSシリーズをいずれ
聴き比べてみたい。

今回、ヴィンテージ線による
KS・VWSシリーズを聴いた。
同シリーズは年を追うごと
にレンジを広げ情報量が増え、
独特の温かみや骨格の確かさな
どの持ち味そのままに、大い
な成長を遂げている感がある。
今回、KS・VWS・RE
XII/Nの初期モデルと、人造
砥石を用いた中期モデル、さら
に人造と天然砥石による202
2モデルを聴き比べたが、これ
はもうまったく別物と言える。
新しくなるにつれて情報量が激
増し、音楽の「真実」へ近づく
のが明確に分かる。最新版はた
いへんな力感と切れ味、スケー
ルを聴かせるのだ。